

研究成果の社会実装による新規事業創出 — 基礎研究から共同研究、技術移転に至る実践事例 —

産学連携に関心はあるものの、「どんな相談ができるのか」「自社の規模でも進められるのか」「研究がどう事業につながるのか」といった疑問を持つ企業に向けて、名古屋市内の企業と名古屋工業大学が連携し、研究シーズの活用から装置開発、事業化検討に至るまで進めた実際の事例を紹介し、**連携の入り口から成果に至るまでの考え方と進め方を具体的にお伝えします**。大学との連携を現実的な選択肢として検討するためのヒントを得られる内容となっております。

【日時】 令和8年2月4日（水） 14:00-17:00 ※開場13:30
【会場】 名古屋工業大学 4号館1階ホール



猪股 氏

講演（14:05-14:45）

「人工シデロフォア技術を用いた大腸菌群検出技術・装置の開発について」

猪股 智彦 氏（名古屋工業大学 生命・応用化学類 教授）

食品衛生法の改正により衛生管理の強化が求められる中、食中毒の原因となる大腸菌を迅速・簡便に検査する技術が注目されています。

本研究では、**細菌が金属を取り込む際に利用する「シデロフォア」に着目し、大腸菌を選択的かつ迅速に検出できる新しい技術・装置を開発**しており、その内容についてご紹介するとともに、企業とどのように連携し、実用化・社会実装へとつなげてきたのかについても、後半のパネルディスカッションにつながる視点でご紹介します。



池田 氏

パネルディスカッション（15:00-16:00）

「実例から学ぶ産学連携の進め方」

パネリスト

猪股 智彦 氏（名古屋工業大学 生命・応用化学類 教授）

池田 幸治 氏（株式会社榎屋 技術開発本部
ことづくり開発センター センター長）

ファシリテーター

片山 精 氏（名古屋工業大学 産学官金連携機構 特任准教授）

講演でご紹介した研究・技術開発事例をもとに、「企業」と「大学」それぞれの立場から振り返ります。

企業は「技術開発に踏み切った判断の背景や、大学に期待した役割、自社で担った部分」について、大学は「企業の相談をどう受け止め、研究としてどう組み立て、どのように伴走したのか」についてお話いただき、両者の視点の違いや考え方のすり合わせを通じて、**企業が大学と関係性を築き、プロジェクトを進めていくためのヒントを共有**します。

名刺交換会（16:00-16:30）

懇親会 ※有料（16:30-17:00）

飲みものをご用意しております。情報交換の場として積極的にご活用ください。

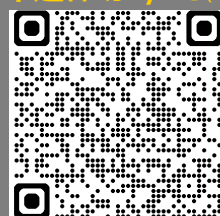
講演会： **無料**

懇親会： 1人 ¥300（※現金精算）

以下のURLまたは右記の申込フォームからお申込みください。
<https://forms.gle/YYD8LN6aE28xEbc3A>

（公財）名古屋産業振興公社 研究推進部（担当：土井・川阪）
Tel: 052-736-5680 E-mail: n-ova@nipc.or.jp

申込締切1/28(水)



参加費

申込方法

お問合せ